



平成最後の同窓会活動

同窓会長 吉田 政直

昭和47年度体育学科卒業



はじめに

平成最後の夏は記録的な猛暑で非常に厳しいものでしたが、会員の皆様は健やかに過ごしてでしょうか。また、列島各地で地震や豪雨、台風など大きな災害が次々と起こり、被災された皆様にはさぞ不自由な生活を送られたことと、心よりお見舞い申し上げます。

さて、今年も同窓会報をお手元に届けることができました。これもひとえに会員の皆様のご支援の賜物と厚く御礼申し上げます。

入学生への願い(教育学部後援会で保護者に話したこと)

後援会は小・中・高等学校でいえばPTAのような組織で、今年度の会長は、同窓会員の太塚弘士氏です。4月7日(土)の入学式後に開催され、入学生の保護者200名ほどの出席がありました。その会で同窓会長として挨拶する機会を得ました。同窓会の活動を紹介した後、近年卒業生の教員就職率が60%あまりという現状を踏まえて、4年後の進路決定に向けて次のような話をしました。

お子様のこれからの4年間は、人生を切り拓くための大切な素地づくりの期間であって欲しいと願っています。本学部を卒業し38年間教師をやってきた者として、是非とも教師の道を選んで欲しいのです。本学部は教員養成のための学部であり、教師の道を歩むのがベストとなるよう組み立てられています。教員の免許を取得しないと卒業できません。小・中・高等学校、更には特別支援学校の免許も取得可能です。学部卒業後大学院に進んで専修免許を取得することも可能です。もちろん、教員以外の道も選ぶこともできます。私は岐阜市内の教育実習協力校に通算12年勤務し、その間多くの学生さんが将来を見据えて真剣に教育実

習に取り組む姿を間近に見てきました。この頑張りを是非教師の道へとつないで欲しいと強く願ってきました。本学部で教員免許が取得できるということは、この免許が本人の最大の強みになります。「教員免許」を活かし、子供が未来を作り出すことを手助けする教師という道に進むことが一番よいことではないでしょうか。本日で参会の保護者の方もこのあたりをご理解のうえ、どうか進路決定に向けて、お子さんへのご助言を宜しく願います。



【さあ、実際にやってみよう！（教育実習から）】

思いを引き継ぐ

今年は西暦2018年。西暦だけをみると単なる年号にすぎませんが、元号にすると明治150年、平成30年となり大きな節目が見えてきます。教育学部の前身は明治6年(1873年)に大垣旧藩庁を「師範研習学校」として創立されました。現在、およそ卒業生は3万1千名、物故者は1万名おられ、正会員は21,395名の大所帯となり、岐阜県教育の中核を担ってきました。

この機会に教育学部同窓会の近年の歩みについて振り返ってみました。平成16年、山口正和会長のもと、創立130周年を記念して長良の旧校舎跡地に26トンのインド産サファイア・ブラウンの巨石と沿革史を刻ん

だ石碑の二体からなる「教育学部跡地碑」が建立されました。沿革史の文字は辻太氏によるものです。平成26年には後藤忠喜会長のもと創立140周年の「教育学部同窓生の集い」が開催され、跡地碑に「師魂」の文字が刻まれました。

長良の地で教育を志した青春の1ページを記念し、岐阜県教育の中核を担う存在であり続けるという跡地碑に託した先輩諸氏の思いを引き継いで、来る創立150周年に向けて会員の皆様とともに歩を進めたいと考えています。

岐阜大学創立70周年記念事業

岐阜大学は、昭和24年(1949年)5月31日に学芸学部、農学部の2学部からなる新制大学として発足しました。国立大学への昇格に同窓生が一丸となって活動を展開した当時の様子を、青山勉会長が同窓会報16号(平成22年)の「はじめに」で詳述されています。(教育学部同窓会ホームページ参照)

現在岐阜大学は、「人が育つ場所」という校風のなかで、「岐阜大学の将来ビジョン(2025年に向けて)」を発表し、「地域活性化の中核拠点であると同時に、強み、特色を有する分野で、国際的、全国的な教育・研究の拠点を目指す」ことを宣言し、その実現に向けて邁進しているところです。

岐阜大学は2019年6月に創立70周年を迎えることになり、次のような記念事業が計画されています。教育学部同窓会としても岐阜大学同窓会連合会の一員と

して連携して取り組むこととしておりますので、格別の母校愛をもってご支援、ご協力を心よりお願いいたします。

■ 創立70周年記念事業について

1 記念式典, 記念演奏会, 記念講演会

(1) 期日 2019年6月1日(土)

(2) 場所 記念式典, 記念演奏会, 記念講演会
長良川国際会議場(岐阜市長良福光2695-2)
記念祝賀会
都ホテル(岐阜市長良福光2695-2)

(3) 次第 ・記念式典(13:30~14:30)

・記念演奏会(14:50~15:20)

・記念講演会(15:30~16:30)

講師: 金城俊夫氏(元岐阜大学長)

・記念祝賀会(17:00~18:30)

2 記念誌の編集・発行(総頁数120頁程度)

3 学術アーカイブスの構築

また、6月1日を軸に、大学全体で関連事業が通年で実施される予定です。ホームページ「岐阜大学創立70周年記念事業」(<https://www.gifu-u.ac.jp/70th/70th.html>)で公開中ですので、是非ご覧ください。



【地×知の拠点アーカイブ・コア】

岐阜大学創立70周年記念事業へのご寄附のお願い

岐阜大学は来年(2019年)6月に創立70周年を迎えることになりました。この記念事業の一つである「学術アーカイブズの構築」では、これまでに大学内に蓄積された知の資産を未来に継承することを目的として、データベースの構築のほか、「アーカイブ・コア」を岐阜大学図書館内に新たに設置します。「アーカイブ・コア」には「資料収蔵庫」が新たに作られ、この中に岐阜県師範学校時代より収集されてきた教育学部の人文系資料が多数収められる予定です。

紙資料を長期にわたって保存するためには、防虫、温度・湿度調節、紫外線防止が適切に行える空間が必要です。「資料収蔵庫」には、こうした機能がすべて備わっており、教育学部の知の資産を継承する拠点になると考えております。

岐阜大学創立70周年記念事業は、学内外の寄附により進めております。同窓生の皆様にもぜひともご寄附をお寄せいただきますようお願い申し上げます。

教育学部・教育学研究科の発展を願って



教育学部長 別府 哲

今年の4月より、学部長・研究科長をさせていただいております。この任に就き、岐阜大学教育学部が明治6年に設立された師範研習学校を前身とし、140年余の歴史をもつことをあらためて確認し、その使命をしっかりと受け止めなければと心を新たにしているところです。

簡単な自己紹介—子どもと「出会い直す」

私自身は、現在の学校教育講座(心理学コース)に所属し、子ども、特に発達障害のある子どもの支援のための相談、研究を行っております。発達障害のある子どもに関わる際に、教育現場でよく言われる言葉に、「困った子は困っている子」というものがあります。発達障害のある子どもの中に、落ち着きがなく教室から飛び出してしまったり、友達を怒らせることを言ってトラブルになってしまうなど、「困った」行動をよくする子がいます。しかしそれをしている子ども自身は、例えば窓の外に昆虫に注意を奪われそれを採ろうと思った瞬間に身体が動いてしまい、結果として離席してしまったり、相手の気持ちがあまく読めないために悪気はないのですが相手の嫌なことを言うてしまうことがあります。その結果、本当はそうしたくないのに、先生に注意されたり友達に怒られたりしてしまう。「困った」ことをする子ども自身、本当は「困っている」のではないか、という理解の仕方をあらわしています。

学校におじゃまさせていただくと、子どもたちが自身、時代によって変わってきているところもたくさん感じます。一方、この「困った」ことをよくする子どもが、当事者からすると「困っている」子どもたちであることは、変わらないようにも思うのです。地域や家族、学校の位置づけなどが時代によって変わり、その「困っている」内容が複雑であったり見つけにくくなっているのも事実です。しかし大人が悪戦苦闘しながら取り組む中で、子どもの「困っている」事実とその裏にある発達したい願いを見つけることができることがあります。子どもの「こうなりたいのになれない悲しみ」と、しかしその中で頑張っている健気さを感じ取り、その子と新たな「出会い直し」ができる瞬間です。私にとっては子どもと関わる仕事の喜びを強く感じる時です。それは教師という仕事も同じであり、ぜひその喜び

と魅力を学生に伝えていきたいと考えています。

あわせて学校の先生方は、厳しい条件の中で日々、それに一生懸命取り組んでおられます。そういった学校の先生方から深く学び、そして先生方を少しでも支え励ましていける大学になっていかなければいけないと強く思う次第です。

教育学部の現状と課題

この点は次ページで少し詳しくふれさせていただきます。重複する部分もありますが、2点だけここで述べさせていただきます。

一つは、教師という仕事の魅力を伝え、そのための力量をしっかりつける学部・大学院教育を充実させることです。近年、教師という仕事の大変な側面が社会的に強調されています。しかしこの仕事は、子どもと関わり、子どもから学ぶ中でその素晴らしさを発見したり、成長に涙したり、人間の発達にたずさわるからこそその魅力をいっぱい持っています。それを実感するためには、机上の学問で学ぶこととともに、学校現場で実際に子どもと触れ合う体験が必要です。これを実施するため教育学部では、ACT(Active Collaboration Teaching)プランという、1年生から4年生まで毎年一定期間学校へ行く体験を授業の中に組み込んでいます。教育学部に入学してこられる一人一人が教師の魅力を実感して卒業していけるよう、このACTプランのさらなる改善に取り組んでいきたいと考えております。

二つは、社会的な要請に対する改革です。同窓会報No23でもご紹介した文部科学省に設置された「国立教員養成大学学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議(以下、有識者会議)」の報告書が平成29年8月に出されました。それに沿ったさまざまな改革が、急ピッチで各大学に求められています。教師の魅力を伝えるためには、その教師を育てる私たち大学教員・職員が、同僚性を持った仲間となり、自分たちの仕事に誇りを持って取り組むことが必要です。厳しい課題が山積ですが、その根本は大切にしながら、一つ一つ取り組んでいく所存です。同窓会の皆様にも、さまざまな形で協力いただきたいと考えております。今後もどうかよろしく願いいたします。

岐阜大学教育学部・教育学研究科の取り組み

■教育学部・教育学研究科の現況

教育学部は、学校教員養成課程(230名)と特別支援教員養成課程(20名)の学生入学定員250名からなり、全員に教育職員免許の取得を卒業要件としています。平成30年3月卒業生250人の進路状況は、学校教育(教員)と教育・学習支援業を併せて59.2%(平成29年3月卒業生は58.7%),大学院などの進学12.8%(同16.6%),官公庁12.0%(同9.3%),一般企業・その他16.0%(同15.4%)となりました。教員養成学部としての教員就職率(大学院進学者を除く)は66.2%となりました。

教育学研究科は、学校管理職養成コースと教育実践開発コースからなる教職実践開発専攻(教職大学院; 専門職学位課程)(定員25名)と、心理発達支援専攻(定員10名)、総合教科教育専攻(定員34名)からなる修士課程で、構成されています。平成29年9月と平成30年3月の修了生合計68名のうち、社会人学生19名は現職復帰しています。(12名は県派遣教員)ほかの修了生49名の進路は、学校教育(教員)が65.3%、専門職の業種等が34.7%となっています。

■「有識者会議」最終報告を受けて

前頁で紹介した文部科学省の「有識者会議」最終報告では、教員養成機能を強化するため、改革の方向性が具体的に示されました。それを受けて、現在検討が進んでいる点について、いくつかだけご紹介させていただきます。

■教育学部

「ぎふ清流入試」の実施

岐阜県内の教育現場で活躍できる人を募集する推薦入試Ⅱ(センター試験を課すもの)として「ぎふ清流入試」を平成31年度入試(平成30年度実施)から行います。募集人数は全体で42名、選抜は、センター入試、学修計画書の提出、個人面接と集団面接で行います。大学の入り口時点で、はっきり教員志望の思いを持っている人に入学していただくことで、教員採用試験受験率や合格率の上昇につながることを期待しています。またこれは、「岐阜県の教員は岐阜の大学・大学院で養成する」ことをめざす一環となる取り組みです。

入学定員の見直しとそれに伴う改革

岐阜県の教員需要の推移などに伴い、入学定員の削減を予定しています。これとあわせて教員志望率と教員就職率を向上させるため、講座の一部改編、副免許取得の在り方、カリキュラムの改編、将来的な入試や教員組

織の在り方などを、ワーキングを立ち上げて検討しています。これはいずれも、教師という仕事の魅力を学生に伝えるとともに、今現場で求められる教師としての力量を確かなものとするための改革と位置付けています。

■教育学研究科

教職大学院の発展

今年度は、学校管理職養成コースと教育実践開発コースの2コースになって初めての修了生を輩出する年になります。特に学校管理職養成コースは全国で初めての取り組みであり、実習を含めたカリキュラム、各教育委員会との連携、評価などについて全国のモデルとなるものを提示し、発信していきます。

教育委員会との連携強化と現職教員の研修

平成29年度から教職大学院と岐阜県教育委員会が協働して行ってきた岐阜県学校管理職養成講習を、平成30年度から教職大学院の科目等履修制度により単位化します。これは教職大学院を活用して現職教員の教育・研修機能の強化を図るものです。

修士課程の改革

「有識者会議」では、特に教科に関する領域の修士課程を、教職大学院へ移行することが強く求められています。目的は教師としての専門性をより高めるカリキュラム、教育内容にすることであり、その点を十分踏まえた形で議論を進めております。

■兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科(博士課程)への参画

現在、兵庫教育大学が基幹校となっている兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科に、岐阜大学大学院教育学研究科も平成31年度より参画することになりました。教職大学院や修士課程を修了した方が、さらに研鑽を深め、博士号を取得する道をひらくことになりました。

■附属学校の取り組み

これまで行ってきた、①地域の公立学校(小学校3校、中学校4校)の間で協力学校制度を設定して行っている研修や職員交流、②附属学校としては全国で唯一委託を受けている、文部科学省の「これからの時代に求められる資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究」の実施(一単位当たりの授業分数などの検討)、③働き方改革の検討と実施、に加え、小中一貫教育検討委員会を立ち上げ、義務教育学校化や組織の在り方について、地域のモデルとなる学校づくりをさらに検討していきます。

平成 30 年度 岐阜大学教育学部同窓会役員

会長

吉田 政直 (S47 体育)

副会長

田口 機子 (S40 体育)

黒田 隆吉 (S47 地学)

後藤 信義 (S47 英語)

村瀬康一郎 (S53 数学)

幹事 (◎部会長 ○副部会長)

総務部会 (担当副会長 村瀬康一郎)

◎ 村瀬康一郎 (S53 数学)

○ 高木 敏彦 (S48 史学)

高橋 和子 (S49 美術)

森 社 (S51 化学)

菱川 洋介 (H16 数学)

組織部会 (担当副会長 黒田 隆吉)

◎ 加藤 直樹 (S54 物理)

○ 高橋 忠明 (S48 技術)

末松 豊生 (S54 教育)

興戸 律子 (S54 数学)

事業部会 (担当副会長 後藤 信義)

◎ 山田 正昭 (S49 地学)

○ 矢嶋 英敏 (S51 英語)

清水 優子 (S50 家政)

河合 鋭夫 (S52 技術)

小野木 卓 (S53 哲学)

原 尚 (S53 体育)

鈴木 祥隆 (H22 特支)

広報部会 (担当副会長 田口 機子)

◎ 竹市 安彦 (S49 美術)

○ 栗田 京 (S49 技術)

大石 英文 (S49 国語)

林 敦郎 (S50 国語)

今井 亜湖 (H 8 技術)

監査

國枝 俊介 (S44 美術)

富成 孝志 (S47 地学)

増田 行義 (S48 英語)

評 議 員

大学系		
国文	遠山 健二	S62
	吉永 康昭	H5
	富山 哲成	H8
	大前 剛士	H16
史学	丹下 侑輝	H19
	友田 靖雄	S40
	旭 健	S47
	高木 敏彦	S48
地理	武藤 貞昭	S49
	川部 誠	S52
	小牧 壽	S45
	小林 直樹	S50
法経	豊島 博	S58
	堀江 秀樹	S58
	新井 恒雄	H6
	村井 俊之	S56
哲学	横田 稔	S57
	清水 泰浩	H2
	丸山 靖生	H3
	古川 徹	H19
数学	近藤 新八	S43
	柘植 卓伸	S52
	國定 幸敏	S53
	榎井奈津子	H元
物理	奥村 直也	H5
	高田 哲夫	S41
	瀧澤 政昭	S48
	中川 敏之	S50
化学	熊崎 盛敏	S55
	名取 康夫	S57
	奥田 好紀	S56
	若曾根 隆	S58
生物	堀部 昇	S61
	市原 隆行	H2
	竹腰 宣行	H3
	興戸 浩道	S54
教育	服部 公彦	S57
	白木 和雄	S59
	酒井 茂	S61
	田辺 美樹	S61
その他	安藤 志郎	S43
	大野 伴和	S52
	井上 好章	S53
	渡辺 寛樹	H9
細江 達三	H18	

大学系		
地学	小栗 敬彦	S42
	大平 柳一	S49
	水谷 憲司	S55
	森 透	S55
音楽	古田 靖志	S58
	棚橋 弘	S48
	山田真紀子	S54
	羽土 聡	S58
美術	丸山 真姫	S59
	杉本 公彦	S61
	酒井 賢	S34
	長谷川 清	S37
体育	國枝 俊介	S44
	竹市 安彦	S49
	鬼頭 立城	S60
	中村 博巳	S39
技職	田口 機子	S40
	石子 裕朗	S45
	岡部好四郎	S52
	谷端 良夫	S55
家政	伏屋 敬介	S45
	高橋 忠明	S48
	清水 茂樹	S58
	吉田 竹虎	S62
英語	淀川 雅夫	H7
	杉山 恵子	S48
	清水 優子	S50
	南川 明子	H 8
教育	吉田 麻子	H 9
	佐野 陽子	H11
	後藤 信義	S47
	高田 大嗣	S52
その他	服部 吉彦	S54
	深尾 雅人	S57
	久保田信孝	S63
	安田 和夫	S53
その他	柳川 禎章	S53
	神谷 弘子	S53
	松井みどり	S54
	江崎 麻美	S61

師範系		
師範男子	宮脇 修	S24
	安藤 俊夫	S25
青年師範	安田 嗣朗	S21
	石田 幸彦	S24
	今井 昌喜	S25
	服部 真六	S26

理 事

大学系		
国文	曾我部領史	H8
史学	武藤 貞昭	S49
地理	小牧 壽	S45
法経	山本 讓	S48
哲学	谷本 龍馬	S50
数学	堀部 邦雄	S36
物理	鈴木 雅史	S50
化学	桐村 良昭	S53
生物	小椋 郁夫	S49
地学	岩田 將之	S48
音楽	棚橋 弘	S48
美術	石原 通男	S32
体育	高橋 茂徳	S41
技職	伏屋 敬介	S45
家政	野村 令子	S34
英語	古澤 哲男	S42
教育	古田 信宏	S54
師範系		
男師	宮脇 修	S24
	安藤 俊夫	S25
青師	石田 幸彦	S24
	服部 真六	S26

平成 30 年度 岐阜大学教育学部同窓会評議会報告

日 時 平成 30 年 6 月 2 日 (土) 13 時 00 分から
 場 所 教育学部本館 7 階 第一会議室
 出席者等 評議員・理事・役員 111 名 (内委任状出席 79 名)
 会 議 議事については、議長として後藤信義氏を選出し、以下の事項について審議した。



- ① 平成 29 年度事業報告
村瀬総務部会長、興戸組織部会長代理、山田事業部会長、竹市広報部会長から資料に基づき報告があった。
- ② 平成 29 年度決算報告
村瀬総務部会長から 29 年度の会計決算報告があった。
- ③ 会計監査報告
増田会計監査から、会計監査の結果、予算の執行管理等適切に行われている旨の報告があった。
- ④ 事業報告及び決算の承認
審議の結果、報告の通り 29 年度事業と決算が承認された。
- ⑤ 次期同窓会長候補者推挙委員の選出
次期同窓会長選出について、会則に則り会長候補者推挙委員の選出を行うこととした。投票結果として、村井俊之氏、竹市安彦氏、石子裕朗氏、高橋忠明氏、後藤信義氏を選出した。
- ⑥ 平成 30 年度事業計画
村瀬総務部会長、興戸組織部会長代理、山田事業部会長、竹市広報部会長から各部の事業計画の提案がなされた。
- ⑦ 平成 30 年度予算審議
村瀬総務部会長から、30 年度予算についての提案がなされた。
- ⑧ 事業計画案及び予算案の承認
審議の結果、平成 30 年度の事業計画と予算を承認した。
- ⑨ その他

平成 29 年度教育学部同窓会決算報告

●一般会計

＜収入の部＞		科目	決算金額
		前年度繰越金	998,072
		同窓会費	6,690,000
		雑収入	27
		合計	7,688,099
＜支出の部＞		科目	決算金額
		運営費	1,974,645
		庶務費	1,431,000
		事務管理費	254,013
		役員会費	225,576
		通信費	14,006
		渉外費	20,000
		交通費	30,050
		組織活動費	1,384,113
		名簿管理費	957,385
		名簿作成助成費	10,216
		同窓会入会式費	416,512
		学部援助費	90,000
		事務援助費	0
		教育文化助成費	90,000
		事業活動費	1,488,197
		成果刊行費	820,800
		会議費	483,838
		事務費	183,559
		広報活動費	2,355,607
		印刷費	1,309,271
		通信費	1,046,336
		次年度繰越金	395,537
		合計	7,688,099

●事業活動基金

＜収入の部＞		科目	決算金額
		前年度繰越金	40,766,409
		利息	3,197
		合計	40,769,606
＜支出の部＞		科目	決算金額
		貸金庫料	8,640
		次年度繰越金	40,760,966
		合計	40,769,606

●教育実践事業基金

＜収入の部＞		科目	決算金額
		前年度繰越金	3,240,692
		利息	4
		寄付金	200,000
		合計	3,440,696
＜支出の部＞		科目	決算金額
		教育実践論文顕彰費	402,000
		次年度繰越金	3,038,696
		合計	3,440,696

平成 30 年 6 月 2 日評議会で承認済み。

平成 29 年度 教育学部同窓会活動報告

月	総務部会 等	組織部会	事業部会	広報部会
4	7 入学式	● 役員変更状況確認	● 第 32 月集印刷開始 ● 教育研修課との打合せ ● 臨時部会；数回	
5	14 監査・運営委員会		● 第 32 集発刊 ● 第 33 集に係る教育研修課への依頼 22 第 32 集配布作業	
6	1 岐阜大学創立記念行事 3 理事会・評議会の開催		● 教育事務所長会, 県小中校長 会役員会に協力依頼 ● 県教委へ後援申請	3 第 1 回部会 (担当分担, 細部打合せ)
7			● 県教職員互助会へ助成金申請	● 担当者より会報の原稿の作成依頼
8	10 拡大運営委員会	● 会費未納者再請求 ● 1 年生 I D パスワード配布		● 執筆者の原稿作成 ● 会報の原稿集め
9				● 印刷業者の選定
10			● 教育事務所訪問 ● 総合教育センター長訪問	● レイアウト, 挿絵, 配置など 23 第 2 回部会 (編集会議)
11			● 審査依頼；都市教育長会長, 町村教育長会長, 県小中校長 会長, 同小校長会長, 同中校長 会長	● 会報の原稿の校正 (初校) ● 会報の原稿の校正 (2 校)
12				● 同窓会報第 23 号発行・発送
1	11 拡大運営委員会			
2			15 論文概要入手, 予備審査, 最終審査資料作成	
3	25 教育学部同窓会入会式 及び卒業生との懇親会		1 第二次審査会 15 最終審査会 ● 教育実践研究入賞論文集 - 第 33 集 - 発刊手続き開始	

教員採用試験の 状況について

教育指導員 山田 正昭
昭和49年度生物地学科(地学)卒業
教育指導員 高橋 和子
昭和49年度美術工芸学科卒業

1. 教員を目指す「オール岐阜大学」

教育学部の学生、院生、既卒者の教員採用試験(平成30年度実施)の受験者は、下表の通りである。

(+aは他県受験の卒業生数)

	学部生	院生	既卒者 岐阜県	総合計
小学校	81	5	40	126 + a
中学校	33	3	15	51 + a
高等学校	21	7	24	52 + a
特別支援学校	19	0	5	24 + a
総合計	154	15	84	253 + a

※進路相談室把握分

岐阜県・愛知県在住の既卒者については、教育学部の同窓会・後援会のご支援やACT(アクト)支援室の協力を得て「卒業生学習会」を進路相談室が主催して行っている。

2. 幅広い同窓会員に支えられる「勉強会」

多くの岐阜大学教育学部の同窓生の皆様に「小学校学習指導要領の解説」「個人面接練習」「中学校実技指導」「小学校実技指導」等で直接ご指導をいただいている。



また、学部をあげての「集団模擬面接」では教職大学院・教育支援部・教育学部対策委員・教育学部教学委員の先生方から、力強いご支援やご指導をいただいている。おかげで、全校種の学生は採用試験に対する心構えを確立したり、不安の解消をしたりして自信につなげることができる。



3. 主体的に取り組む学生の「学習会」



【グループワーク：小・中学校】



【個人面接：全校種】



【体育実技：小学校】

☆グループワーク・プレゼン面接・集団討議・個人面接・論文・論述の指導も実施している。

【学生の言葉】

試験会場では、まず人数の多さに驚き、自分はこの人数の中から選ばれるのかと思うと一気に不安になった。深呼吸をして今までをふり返えると、いろいろなことが思い出された。面接も実技も仲間と一緒に高め合い励まし合ってここまで頑張ってきた。教採の勉強を通して学科内の仲を一層深めることができた。手厚くサポートしてくださる大学内の先生方の温かさや幅広い年代の先輩の先生方の熱い思いも感じた。教員として向かう決意もできた。進路相談室でいただいた手引きや学習会の資料、自主勉強ノート等全てが自分のお守りになった。このような環境の中で試験に向かうことができる岐阜大学生としての誇りと幸せも味わった。「大丈夫。今までやってきたことを出せばいい！」と自分を奮い立たせた。

試験を終えた今、教員として、笑顔で子どもたちの前にいる自分を思い描いている。

平成29年度教育実践研究助成事業の報告

事業部会長 山田 正昭

昭和49年度 生物地学科(地学)卒業

◆1. はじめに

昭和24年に発足した新制大学・岐阜大学は、来年度に創立70周年を迎えます。その記念事業が6月1日に計画されています。ぜひ、多くの皆様に参加していただきたいと思ひます。

この「教育実践研究助成事業」は、教育学部が長良の地から現在の柳戸の地に移って3年目から開始されたため、昨年度で第33回となりました。

本事業は、岐阜県教育委員会、市町村教育委員会の教育行政機関と岐阜県小中学校長会等の深い理解と絶大な協力が得られ、長く続いてきたと考えています。また、平成10年度からは当事業推進のため、財団法人岐阜県教職員互助会から教育文化助成金をいただき、論文集の発刊も継続しています。

さて、第2次岐阜県教育ビジョンの到達度が検証され始めた昨年度は、「確かな学力の育成と多様なニーズに対応した教育の推進」と「豊かな心と健やかな体を育む教育の推進」を中心にした研究実践が多く取り込まれました。新しい学習指導要領の方向も明らかになり、先進的な外国語活動や英語科の授業、教科化される道徳の授業実践などに、総合的・計画的に取り組んだ研究実践もみられました。

その一方で、「教職員の働き方改革」という動きが顕著になりつつある状況において、平成29年度の応募状況には変化が現れました。1,300人を超えた時期もあった応募人数が、下表のようになりました。昨年度の数値と比べて、小学校からの応募者が減少し、逆に中学校からの応募者が実数として増えています。特に、中学校勤務の30歳代～50歳代

男性の応募が増えました。

平成31年度は1か月間で新たな年号に替わりますが、その初年度の教育実践を是非まとめていただきたいと思います。多くの応募をお待ちしています。

これまでの諸先輩たちの取り組みと同じように、教育実践研究論文は、自分の思いを教職員に広く紹介することだけではなく、その実践がより多くの教育活動に進化・発展することを願い、実践をまとめる自分自身が自己内省し、自らの指導力・実践力を工夫改善していくことにつながるものだと思います。

◆2. 応募状況と傾向

○応募の傾向

- ・応募者数が1,200名を4名切り、応募者率も教職員全体の11%を下回りました。(下表参照)
- ・20歳代と30歳代の応募が945名で、応募者全体の8割を占める傾向が続く中で、60歳代の応募が16人もありました。素晴らしいことです。
- ・応募人数や論文数の総数が減る中で、中学校からの応募者数と論文数が増えています。応募論文数を昨年度(会報No.23)と詳しく比較してみても、多くの教科・領域で伸びていることがわかります。実践中心の中学校教職員が、論文にも取り組み始められたと思い、今後は楽しみです。
- ・全応募点数の内、中学校教職員からの論文が4割を超え、最優秀賞、優秀賞、優良賞に18点が選ばれました。中学

<表1>平成29年度の応募状況：職種別，年代別，性別応募人数（総計1,196名）

校種	職種別										年代別						性別		
	校長	教頭	主幹教諭	教諭	養護教諭	栄養教諭	事務職員	講師	A L T等	小計	20代	30代	40代	50代	60代	小計	男性	女性	小計
小	6	5	0	646	21	7	4	24	0	713	366	178	107	51	11	713	329	384	713
中	6	1	2	453	8	5	2	6	0	483	239	162	55	22	5	483	317	166	483
総計	12	6	2	1,099	29	12	6	30	0	1,196	605	340	162	73	16	1,196	646	550	1,196

<表2>平成29年度の応募状況：領域別応募論文数（小学校705点 中学校476点 総計1,181点）

校種	教科										教科以外										小計	総計	
	国語	社会	算数・数学	理科	生活	音楽	図・美	技家	保体	英語	小計	道徳	特別活動	総合学習	外国語活動	学級経営	生徒指導	特別支援	健康安全	管理経営			その他
小	107	72	123	40	19	24	11	8	41	16	461	28	29	11	30	50	3	36	25	11	21	244	705
中	53	52	61	52		18	14	18	48	58	374	13	13	4		19	4	24	8	7	10	102	476
総計	160	124	184	92	19	42	25	26	89	74	835	41	42	15	30	69	7	60	33	18	31	346	1,181

校の教育活動の充実が着実に図られていることを感じました。

- ・教育実践に占める教科の割合が7割に留まり、教科以外の領域の実践が多く見られました。

◆ 3. 審査会の報告

(1) 審査の経過

応募論文は、1月11日までに各市町村教育委員会に提出されました。その論文は、各市町村教育委員会での審査後、6教育事務所に提出され、第1次審査が行われました。各教育事務所毎で審査された論文は、第2次審査のため、県教育委員会教育研修課に提出され、3月15日の最終審査会で、最優秀賞、優秀賞、優良賞、新人賞合わせて73点が決定しました。

＜最終審査会の審査をお願いした皆様＞

学識経験者2名、教育研修課研修企画監、同課長補佐、各教育事務所長、各教育事務所教育支援課長、都市教育長会長、町村教育長会長、県小中学校長会長、県小学校長会長、県中学校長会長 以上21名

(2) 審査の観点

審査は、次の5つの観点から厳正に行われました。

- ① 教育の今日的な課題を踏まえ解決の方向が明確になっているか。
- ② 教育現場に密着して、目標、計画、指導、評価の一体化が図られているか。
- ③ 児童生徒の成長や変容の姿がよく表れているか。
- ④ 研究及び実践内容に創造性・妥当性が見られ、説得力のある論文であるか。
- ⑤ 教育実践・研究論文として明確な表記であるか。

(3) 平成29年度「最優秀賞」の紹介

上記の観点で、各教育事務所及び教育研修課で審査され、優秀賞候補10点の中から、最も優れた論文として「最優秀賞」が決定しました。

可児市立広見小学校 教諭 高木 恵子

＜外国語活動＞

言語習得の過程を重視する

小学校外国語科の指導の在り方

～ モジュール的発想に基づく

補助的教材の開発・活用を通して～

最優秀賞論文として「優れている点」を紹介します。

- ・外国語教育の今日的課題に対して、児童の言語習得の特性を捉えたスモール・ステップでの段階的な指導を大切にしている。
- ・全校体制で実践するための教材の開発に取り組み、年2回の教員を対象としたアンケートを通して、段階的な指導の有効性を検証している。
- ・様々な言語習得の理論に基づいた具体的な実践やモジュール的発想の補助的教材は説得力がある。
- ・文章や論の筋が明確であり、分かりやすく丁寧な記述がなされている。効果的な図表の配置に加え、全校的な

実践の成果を児童の意識の変容として具体的に示している。



【最終審査会の様子】吉田同窓会長の挨拶



【最終審査会の様子】座長の見事な進行・大平審議員からのご指導

今回の「最優秀賞論文」は、本事業で求めている「教育実践研究論文」の一つの作品であるという評価が高く、また、教職員が実際に論文を書く際の10ページものの参考に値するものとして評価を受けました。

◆ 4. おわりに

教育実践研究入賞論文集第33集には、最優秀賞論文を、執筆者の同意を得て、全10ページとも掲載しました。(今号から他の掲載論文の2ページ集約版もPDF版印刷としました。)具体的な論文の全体像の参考として、また、実践研究の内容を各小学校の教職員の皆様に活用していただければ幸いです。

最後に、平成30年度も教育実践研究助成事業が働き方改革の中にあってもこれまで以上の実践が報告されますことを願って、審議員を長く務めていただきました大平先生からのご指導を載せ、報告とします。

受賞された優れた教育実践論文には、「汎用性」、「創造性」、「必然性」が見事に備わっている。

- ・優れた高度な教育論文であるほど、汎用性が難しくなるという一面があるが、実践者としての厳しさや誇りにつながるものである。
- ・子どもの見方、考え方やニーズ等をよく把握し、そこに基盤を置いた実践は、工夫を詳しく述べることで説得力が高められる。
- ・子どもの現実と教育の困難性の狭間で解決を目指したものの、研究の仮説が明確なものは、教育者にとって興味深いものであり、必要とされる。

優れた教育実践研究は、日常の指導の充実がうかがえる。広く紹介し、教育の一層の充実を活かしていきたい。



第33回（平成29年度）岐阜県小中学校 教育実践研究論文受賞者一覧

最優秀賞（1編）		
可児市立広見小	高木 恵子	言語習得の過程を重視する小学校外国語科の指導の在り方 ～モジュール的発想に基づく補助的教材の開発・活用を通して～ <外国語活動>
優秀賞（9編）		
岐阜市立岐阜小	篠田 龍 祐	よりよい社会の実現をめざす子が育つ社会科学習 ～子どもが社会とつながる授業を通して～ <社会>
岐阜市立長良東小	小野 寺 瞬	自らよりよい生き方を求めようとする子が育つ道徳教育 ～内面の揺れ動きの中から、自己の内面を見つめようとする子が育つ道徳科の在り方～ <道徳>
各務原市立那加第一小	石 樽 隆 之	算数ができた、わかった、楽しいと言える児童の育成 ～タブレット端末、教科学習Webシステム等を用いて考える協働学習と自分なりの解説書作成を通して～ <算数>
大垣市立興文中	栗 原 利 香	自分の表したいことを基に、主体的に表現を追求し続ける生徒の育成 ～表したいイメージを具体的にできる「発想・構想の授業」の在り方～ <美術>
揖斐川町立揖斐小	大 西 友 美	全員で学び合う、伝え合う、活動する楽しい国語学習 ～考えいっぱい！できるよ！できたよ！1年生～ <国語>
関市立富岡小	土 屋 寿 美	自ら学ぶ力を身に付け、追究し続ける子の育成 ～理科の見方・考え方を働かせて学ぶ授業を通して～ <理科>
瑞浪市立瑞浪中	原 幸 三 郎	自己を見つめ、仲間とともによりよい生き方を求める生徒の育成 ～「自己・仲間の多様な感じ方や考え方（願いや思い）」を共有することを通して～ <道徳>
多治見市立滝呂小	江 崎 紀 子	自分の「思いや意図」をもって表現を工夫する子の育成 ～表現と鑑賞の往還の中で、学習のつながりを実感し必要感をもって学ぶ音楽科学習の在り方～ <音楽>
高山市立久々野中	田 口 令 子	英語に慣れ親しみ、進んでコミュニケーションを図ろうとする生徒の育成 ～久々野中式サイクル学習と意欲を持たせるアウトプット活動を通して～ <英語>
優良賞（39編）		
岐阜市立柳津小	小 倉 啓 史	理科の見方・考え方を働かせ、自然を主体的に追究する子を育てる理科学習の在り方 ～仲間とかかわり合い、学びを深める指導改善を通して～ <理科>
岐阜市立加納中	西 門 純	「深い学び」につながる授業改善 ～開発した誤答分析に基づいた国語科指導～ <国語>
岐阜市立岐北中	高 見 智 恵	望ましい食生活を主体的に送ることができる生徒の育成 ～学校・家庭・地域と連携した指導を通して～ <健康安全>
岐阜市立藍川東中	清 水 立 貴	豊かな心と健やかな体を自ら求める生徒の育成 ～仲間との学びを個人生活に生かす保健分野の指導～ <保健体育>
羽島市立小熊小	西 薫	E S Dの視点で教科をつなぐ国際理解教育 ～カリキュラムマネジメントで共生の心を育てる～ <国際理解>
羽島市立中央小	水 端 俊	よりよい社会の実現を目指す子が育つ社会科学習 ～子どもが社会とつながる授業を通して～ <社会>
各務原市立川島小	中 野 美 奈 子	将来に夢や憧れる自己イメージをもち、主体的に活動する児童の育成 ～「非認知能力」を育てる活動を通して～ <学級経営>
各務原市立緑陽中	立 川 和 彦	自己肯定感・自己有用感を育む生徒指導のあり方 ～問題行動の未然防止の取組～ <生徒指導>
山県市立富岡小	奥 田 宣 子	社会に目を向け、自分の思いを確かにするN I E ～新聞切り抜き作品の教育効果～ <総合>
瑞穂市立穂積中	井 嶋 潤	既習内容を最大限に発揮し、対話活動を行う生徒の育成 ～学習到達目標とパフォーマンステストの活用を通して～ <英語>
笠松町立笠松小	高 濱 梨 沙	仲間と共に活動することのよさを実感できる学級集団を目指して ～児童同士で認め合う活動、自分の思いや考えを伝え合う活動を通して～ <学級経営>
北方町立北方西小	太 田 敦 子	「人間関係形成能力」の育成を目指した学級集団づくり ～意図的にキャリア発達を促し、Q-U検査を活用した実態把握に基づく指導・援助の工夫～ <学級経営>
大垣市立興文小	小 坂 有 紀	思いや意図をもち、豊かに表現する子を目指した音楽授業 ～思考力・判断力・表現力を高める授業づくり～ <音楽>
海津市立高須小	北 川 杏 奈	内容の大体を読むことの指導の工夫 ～第1学年国語科「うみのかくれんぼ」「じどう車くらべ」の学習を通して～ <国語>
海津市立高須小	馬 場 真 奈 美	社会的な見方・考え方を身に付け、事象の特色や相互関連を考えられる児童の育成 ～ワークシートや地図の活用を通して～ <社会>
養老町立養老小	杉 野 真 平	ふるさとに愛着をもち、よりよい社会の実現をめざす子を育むふるさと学習 ～身近な事物・人物の意図的な教材化のあり方を通して～ <その他>
関ヶ原町立関ヶ原小	衣 斐 優	社会的な事象の意味を主体的に追究し、社会とのつながりに気付く子が育つ社会科学習 <社会>
大垣市立興文中	澤 村 秀 彦	主体的・協働的な探究を通して、科学的な見方や考え方を身に付ける生徒の育成 ～生徒による課題づくりと対話的な学びに重点をおいて～ <理科>
垂井町立北中	山 田 茉 莉	主体性をもって学び続けることができる生徒の育成 ～「単元の構想」、「単位時間の役割」を明確にした実践を通して～ <理科>
神戸町立神戸中	鈴 木 静 香	日本の音楽を学ぶ楽しさを味わうことができる授業づくり ～楽しさを実感するための評価の工夫～ <音楽>
郡上市立白鳥小	濱 研 二	算数科における白小スタンダードの確立 ～「主体的・対話的で深い学び」の実現に重点を置き算数の授業を考える～ <算数>

関市立倉知小	花村由紀	スタートカリキュラムの指導観を活かした生活科の授業改善の取組 ～自分のよさに気づき、願いの実現に向けて意欲と自信をもって生活できる児童をめざして～	<生活>
関市立富岡小	山田靖彦	自信と誇りをもち、豊かに生きる児童を目指して ～「学級づくりカリキュラム」の作成と「チャレンジ活動」を通じた自己指導力の育成～	<生徒指導>
郡上市立八幡中	横関慶	創造の喜びを味わい、感性豊かに表現する生徒の育成 ～よりよい作品を求め続ける生徒を目指して～	<美術>
美濃加茂市立太田小	野口洋憲	社会への関わり方を考える児童の育成 ～社会的現象の意味を捉えることを通して～	<社会>
美濃加茂市立太田小	松久倫子	主体的に問題解決に取り組む理科指導の在り方 ～子どもが問題解決の過程を楽しみ、自ら思考力・表現力を高める単元学習の工夫～	<理科>
八百津町立和知小	杉本繁征	学ぶ楽しさ・分かる喜びを実感し、多面的・多角的に考察できる児童の育成 ～5年生の産業学習を核とした社会科学習～	<社会>
御嵩町学校運営支援室	後小路公人他5名	学校の組織力を支える学校事務共同実施組織 ～御嵩町学校運営支援室による、教員の多忙化解消への取組～	<学校事務>
多治見市立養正小	榎岡智恵	疑問を解決する楽しさ、理科の有用性を実感できる理科学習	<理科>
土岐市立肥田小	西垣波瑠香	意欲的にマット運動に取り組む児童の育成を目指して ～シンクロマットの実践を通して～	<体育>
瑞浪市立瑞浪小	加藤操	「してもらう」から「できる・生かす」自分への変容を実感し、家庭実践できる子 ～『自己有用感』につながる授業展開の工夫～	<家庭>
中津川市立南小	水野美咲	自ら進んで表現ができる子を育てる国語科指導 ～書くことの学習を通して～	<国語>
土岐市立泉中	安藤真	「主体的」に学び合う生徒の育成 ～泉中バス学習を通して～	<数学>
土岐市立泉中	稲山竜太	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて ～体育科「マット運動」の実践を通して～	<保体>
中津川市立坂本中	松原元樹	「社会で生きる力」を育む学級経営 ～集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせることを中核として～	<特別活動>
高山市立日枝中	倉島章	生活や社会と豊かに関わる態度を育む郷土PRポスター題材の研究実践 郷土の発展に尽くすよさや創造活動の喜びを実感できる題材設定と指導構想、指導方法の工夫	<美術>
飛騨市立河合小	宮嶋康代	自分の学びを実感し、主体的に学ぶ子の育成 ～自ら学ぶ家庭学習を目指して～	<算数>
下呂市立萩原北中	桂川博充	主体的に社会的現象を追及する学習集団の育成 ～「訊く力」を育む指導を通して～	<社会>
白川村立白川郷学園	粟野佳彦	社会的な見方・考え方を働かせて社会的現象を主体的に追及する社会科学習 ～主体的・対話的で深い学びを視点とした授業改善に向けて～	<社会>

新人賞 (24 編)			
岐阜市立長良西小	渡邊紘子	目的・場面・状況・相手に応じて、英語表現を考えながら伝え合う子を目指して ～子供の実態に即した授業改善の在り方～	<英語>
羽島市立中央中	水谷麗美	全員でつくり、全員ができた・わかったといえる授業の創造 ～生徒の理想とする授業の実現～	<理科>
各務原市立鷺沼中	大畑幹樹	平成31年度の道徳教科化に向けた教師の授業スキルを高める手立ての追及	<道徳>
山県市立伊自良中	杉山幸	主体的に関わり合い、外国語でコミュニケーションを図ることの楽しさを実感することができる英語指導の工夫	<英語>
瑞穂市立本小	池田夕記奈	教科化に向けた外国語教育の指導の在り方 ～4技能の定着を見据えた児童への指導と職員への共通理解を図るための提案を通して～	<外国語活動>
本巣市立真桑小	佐伯康輔	共同体の中で、自己肯定感を育む学級活動 ～「目標実現」と「認め合い」を通して～	<学級活動>
岐南町立北小	臼井あかり	主体的に健康な生活を送ることができる子の育成	<健康安全>
北方町立北方南小	稲葉啓太	社会的現象の意味を意欲的に追及し、よりよい社会の実現をめざす子が育つ社会科学習を目指して ～新学習指導要領を踏まえた、子供が社会とつながる授業を通して～	<社会>
大垣市立東小	戸田有紀	仲間と共に関わり合っ て学ぶことで、動きの高まりを実感できる体育科学習	<体育>
揖斐川町立谷汲小	酒向恵梨香	一人一人がつくる喜びを味わえる授業づくり	<図画工作>
大垣市立興文中	河村日香里	主体的・協働的な学びを通して、適切な言葉で自分の思いや考えを深める生徒の育成 ～説明的文章の「読むこと」の指導を通して～	<国語>
神戸町立神戸中	安藤吉輝	「主体的・対話的で深い学び」を通して、科学的な見方、考え方を育む指導の在り方 ～iPadの活用を通して～	<理科>
関市立坂取小	亀井英喜	へき地校の特性が活かせる算数科指導の工夫 ～メタ認知の強化を通じた思考力及び表現力の育成～	<算数>
郡上市立八幡中	山田崇広	多面的・多角的に考察する生徒の育成 ～中学校社会科 第1学年地理分野「アジア州」における実践より～	<社会>
美濃加茂市立太田小	藤木星也	数学的な見方・考え方を働かせる算数科授業の創造 ～自立的に粘り強く問題解決できる児童の姿を目指して～	<算数>
可児市立中部中	加藤祐輝	話し合いにおいて、合意形成を通し、よりよい結論を求める生徒の育成 ～「主体的な学びを生み出す単元構成の工夫」と「対話的で深い学びを生み出す学習形態及び指導方法の工夫」～	<国語>
御嵩町立上之郷中	太田晴花	スリム化を支える職場環境作り ～学校事務職員の立場から私にできること～	<学校事務>
土岐市立泉小	塚本真優	学びが実感できる授業づくり ～実態に応じた教材教具の開発と学び直しの活用を通して～	<算数>
土岐市立下石小	糸見真	主体的な学びでよさや美しさを感じ取る子 ～地域とかかわりながら作品の見方を広げる鑑賞活動のあり方～	<図画工作>
恵那市立武並小	野々垣恵	好ましい人間関係を育てる学級経営の在り方 ～仲間と関わり合う主体的な活動を通して～	<学級経営>
恵那市立長島小	伊藤文彬	たくましく学習課題を追及できる児童の育成 ～身に付けた知識・技能を活用し、思考・判断・表現できる社会科授業を目指して～	<社会>
中津川市立蛭川小	松田聡美	「わかった」「できた」が実感できる授業 ～説明的な文章の学習を通して～	<国語>
高山市立清見中	大梅理都子	よりよい食生活を送ることができる児童生徒育成を目指して	<食育>
下呂市立竹原小	大前旬子	「楽しさ」から「伝わる実感」を感じる外国語活動へ	<外国語活動>

活躍する同窓生

岐阜大学教育学部附属小学校副校長 熊崎 盛敏

昭和 55 年度 数学科 卒業



今のお仕事について教えてください。

岐阜大学教育学部附属小学校でお世話になっています。今は、次のことを中心にして一日一日を努めています。

- ・将来教員を志す大学生に対する教員養成指導
- ・県内各地から研修に来ている現職教員の研修指導
- ・教育実習校・教員研修校としての働き方改革の推進
- ・義務教育9カ年の岐阜版教育課程の在り方の究明

教師になられてから大切にされたことを教えてください。

私は、生き生きと学習に取り組む子どもの姿に出会うと、自分のことのように嬉しくなります。また、困難な事柄に対して全力で立ち向かっている子どもの姿に出会うと、思わず全力で応援したくなります。

私が大切にしてきたことは、「子どもの心に火をつける」ことです。教師は、子どもを育む職業です。しかし、現実には子どもは子どもの力で成長していきます。自分の力となかまの力で困難を乗り越えていくのです。教師になり、経験年数を経る毎に、私が子どもを成長させているのではなく、子どもが自らの力で成長していることに気付いてきました。ですから、私のできることは、子どもの心に火をつけることだと思っています。

下の2枚の写真は、今から30年前に私が担任した小学校6年生の子ども達です。彼らは、宿題無しを要求してきました。一人一人が学ぶべきことを自由勉強としてやってきました。彼らは、「なかまのしあわせのために」自分の頭で考え、温かい胸で助け合い、丈夫な手足で創り出す、ことを姿で主張してきました。

私にとってはじめて出会った子ども達でした。ひょっとすると、彼らが私の教師人生に火をつけたのかも知れないと思っています。



岐阜大学で学ばれたことが今に生きていますか。

岐阜大学で学んだ思い出という、やはり3年生から4年生の時期のゼミだと思っています。大学の先生と同学年のゼミ生と学んだ記憶があります。なぜ記憶に残っていたかという「楽しかったから」と言えます。それは、

- ・初めて手にする数学の原書に魅力を感じていたこと
 - ・ゼミ生同士で議論し深めていくしくみがあったこと
 - ・先生の指導が的確で納得いくものであったこと
- などがゼミの要素としてあったからだと思われます。それは、極めてアクティブな学びではなかったかと今は感じています。

さて、下の写真は本校の研究会の様子です。PCの画面を手にして語ってみるのは岐阜大学の先生です。その周りにいるのが本校の教員です。本校の研究会は「楽しい」と思います。そこには、大学時代のゼミのしくみを取り入れられているのです。教育実践が、教育研究が、楽しいと思うことは、教師を志す人間の礎です。大学で学んだことは今にも通じることで、それを工夫して繋ぎ、生かすのは私たち自身であると考えています。



後輩の岐阜大学生へ贈る言葉をお願いします。

私は今、将来教員を志す大学生の皆さんへの教員養成の仕事に携わっています。皆さんに是非伝えたいことは次のことです。

「子どもの成長に関わるとともに、自分も人間として成長できる教師という仕事は極めて魅力的な仕事です。」
「大学時代の仲間とともに、喜怒哀楽しながら、相談しながら、支え合いながら、岐阜県の教育を担ってください。」

そして、何度挑戦しても、挑戦しがいのある仕事が教師という仕事です。子どもの成長した姿を、20代から60歳までの大人が同じ目線で語り合える夢や希望に満ちた仕事なのです。

新人先生奮闘記

大垣市立東小学校教諭 増田 拓也

平成 28 年度 理科教育（化学）講座 卒業



担任として子ども達に最初に話したことは。

私は教員 1 年目での、初めての学級開きで「なかま」を大切にしてほしいと話しました。自分自身が小学生の頃、周りの仲間や先生方に恵まれ、楽しい毎日を過ごすことができたからです。縁があって、同じ学級の仲間になったのだから、周りの仲間を大切に、充実した日々を過ごしてほしいと思いました。そんな願いをこめて、初めての学級目標を「なかまとともに」にしました。



勤務で楽しかったことは何ですか。

教員 2 年目の今年の 6 月に行った研究授業です。授業の展開を一人ではなく、様々な先生方にアドバイスをいただきながら、1 時間の授業を考えていきました。自分の好きな教科である「理科」で、多くの先生方とじっくりと教材研究ができたことが楽しかったです。そして、自分が力をいれて授業準備をしたことが子ども達にも伝わり、授業当日は、いつも以上に一生懸命授業に取り組んでくれました。がんばる子ども達の姿に内心感動しつつ、授業をしていて楽しかったです。



夏休み等の長期休暇はどのようなことをしていますか。

旅行をしたり、実家に帰りのんびりすごしたりしています。たまってしまった仕事をするために土日に出勤することがあるため、普段の土日では、遠出することが難しいです。長期休暇に、自分のやりたいことをやったり、行きたいところに出かけたりしています。

趣味で何か取り組んでいるものはありますか。

運動することが好きなのでジムに通ったり、ボーリングやゴルフをしたりすることが趣味です。学生時代の友人だけでなく、共通の趣味をもっている同期や先輩の先生方と一緒にいくこともあります。仕事をしている時とは違う、先生方の新たな一面を発見すること

ができ、とても楽しい時間です。好きなことをする時間は、気分転換になります。

教員として最も必要な力は何でしょうか。

どれだけ子ども達の立場で考えられるかだと思います。子ども達の気持ちを考え、相談を聞いたり、子ども達なりのがんばりを認め、褒めたりしていくことがとても大切であると、1 年と数ヶ月子ども達と過ごしていく中で感じました。給食を全部食べること、大きな声で話をするなど、自分達大人にとっては、たいしたことでもなくても、それらが苦手な子にとっては大きな問題です。子どもの立場で考え、できた時には、大いに褒めていくよう努力しています。

後輩の岐阜大学生へ贈る言葉をお願いします。

教師という職業は、多忙であり、保護者対応が難しいと言われる。しかし、子ども達の成長を間近で見ることができるすてきな職業、やりがいのある職業であると、実際に働いてみて感じました。

昨年、自分が担任していた学級に大縄跳びが苦手な連続跳びができない児童がいました。毎日練習しましたが、うまくできず泣いてしまったり、大縄の練習があるから学校に行きたくないと家で話し、保護者の方から相談の連絡があったりしたこともありました。しかし、東小学校の合い言葉「やればできる」を言い続けたり、学級の仲間に声をかけてもらったりしながら練習し、少しずつ上達してきました。初めて成功したときの笑顔は今でも忘れられないくらい輝いていて、うれしそうでした。学級全員で努力した成果もあり、練習を始める前からの伸びランキングが全校で 2 位になることもできました。そして、大縄跳びが苦手であったその子が、3 月に 1 年間の一番の思い出を大縄大会であると語ってくれて感動しました。教員というのは、そんなすてきな時間を



日々、子ども達と過ごすことができます。岐阜大学生のみなさん、ぜひ夢にむかってがんばってください。

着任された教員の皆様からのご挨拶

隼瀬大輔 先生

美術教育講座・准教授

これまで工芸の中でも現代の生活に即したものづくり「クラフト」という分野で木工や漆を専門に作品の制作を行ってきました。また、中学、高校、専門学校、大学などで「工芸」や「美術」、「インテリアデザイン」などの授業を担当してきました。工芸の授業では、「素材に触れること」や「機能(用途)・素材・制作方法(技術)を考慮し設計・デザイン,制作すること」を大切にしてきました。生徒や学生が、「素材」から一連の制作工程の体験を通し、「ものづくり」をすることで主体的に理解できると考えています。そして、以前勤めていた滋賀大学では伝統的工芸品から新商品開発するという活動にも参加しました。この活動を通して、伝統的な技術や原材料などを深く理解する必要性を感じ、生産者の工房への取材や文献資料の調査を行い、地域のものづくりを伝える冊子の作成も行いました。工芸を通してものづくりの面白さや地域に根付いた文化などを伝えていきたいです。

上田真也 先生

保健体育講座・准教授

本年4月より、保健体育講座に着任いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

私の専門分野は運動生理学です。運動時に起こる様々な生体反応や運動トレーニングによる生体適応メカニズムの解明とその応用研究を行っています。健康維持・増進を目的とした場合、どのような運動が効果的に糖や脂肪を燃焼させることができるのか?についてエネルギー代謝測定や血液分析の手法を用いながら検証しています。また、私の専門競技はサッカーです。岐阜大学サッカー部の指導を行うと同時に、専門分野を活かしながらサッカーのゲーム分析や新規トレーニングの開発にも着手しています。

「学ぶことをやめたとき、教えることもやめなければならない。by ロジェ・ルメール」本学部の教員の卵たちと一緒に学んで、学び続けるとともに、私たちの研究内容が、教育現場の先生方の一助となるよう努めて参ります。

瀧沢広人 先生

英語教育講座・准教授

本年4月、英語教育講座の初等英語教育分野担当として着任いたしました。岐阜県での新生活は、豊かな自然に囲まれ、伝統文化の継承や歴史の舞台となった名所の数々等、日々新しい発見があり、新天地を楽しく過ごしております。着任前は、埼玉県の公立小・中学校及び、市町村教育委員会に勤務しておりました。小・中学校での教育活動は、主に生徒の英語授業における動機付けを重視し、楽しくわかる授業、力の付く授業を目指し実践してきました。その意味からも、私の専門である初等英語教育において、特に児童・生徒の学ぼうとする意欲の向上、動機付け研究(特に児童のWTC, Willingness to communicate)を理論と実践から成果を導き出したいと思っています。また、それを支える外国語としての言語習得研究や語彙指導の研究等も踏まえながら小学校英語教育の研究をしたいと考えております。今後とも御指導御鞭撻の程よろしくお願い致します。

長谷川哲也 先生

学校教育講座・准教授

本年4月に学校教育講座(教職基礎)に着任いたしました。教育社会学を専門領域としており、教師教育や高等教育を対象とした研究をおこなっています。前任校の静岡大学教育学部では、教員を目指す学生による学校支援ボランティアや振り返り会の企画・運営を実践しながら、体験的な学びとその省察に関する研究を進めてきました。さらに最近では、生涯学習を支える大学教育の在り方や、「知」の宝庫である大学図書館の資源格差に注目しながら、大学の社会的な使命や役割についても探求しています。

岐阜県生まれ、岐阜県育ちの私が、岐阜県の教員養成に携わることができ、大きなやりがいとともに責任を感じております。実践的な指導力がますます求められる状況から、ややもすると型にはまった教員の育成となってしましますが、魅力ある教員を育てるために大学は何かできるのかを常に問い直しながら、教育と研究に取り組んでいきたいと思っております。

芥川祐征 先生

教職実践開発専攻・助教

今年度から教職大学院でお世話になる芥川祐征と申します。苗字が珍しいため頻繁に質問を受けますが、某文豪とは血縁関係にありません。生まれも育ちも広島ですが、学生時代は仙台で過ごし、愛媛での初任(高専)を経て参りました。岐阜での生活は初めてですが、誕生日が同じ織田信長公の拓いた地ということで、浅からぬご縁を感じております。

専門は学校経営とりわけ校長職の専門性と養成制度について研究しています。そのため、占領下日本に制度化されていた校長養成制度を再検証すべく、連合国軍が残した極秘資料を解読し、47都道府県の公共図書館や大学資料館に眠る史料群を発掘しています。また、今後の教育学部に求められる高度専門職業人養成を実現すべく、現職教員を受入れています。特に、喫緊の課題とされる「働き方改革」について、多くの学校現場に根を張るK・K・D(勤・経験・度胸)による「成り行き管理」を克服すべく学生と邁進して参ります。

三島晃陽 先生

教職実践開発専攻・准教授

岐阜県教育委員会から交流人事で教職大学院に赴任をしました。これまで、岐阜県の小中学校の教員や行政の立場から学校教育に関わってきました。この4月からは、教員志望の学生や現職教員の方とこれからの学校教育について携わることができることに大変やりがいを感じております。私自身、本学の教育学部数学科の卒業生でもあり、教職大学院の卒業生でもありますので、岐阜県の教育のために貢献できるように努めてまいります。

これまで算数・数学と総合的な学習の時間の指導主事を経験してきたこともあり、総合的な学習の時間を中核においたカリキュラムの開発を研究しております。特に、岐阜県が抱える人口減少問題について児童生徒が問題意識をもち、地域の一員としてかかわれる資質・能力が身に付く小学校から高等学校までの12年間カリキュラムの開発を考えております。将来の地域の担い手を育成できる教育が進められるようにしたいと思います。

10月に着任された教員のご紹介

平成30年10月1日をもって、着任された教員は次の通りです。

橋本 操	准教授	社会科教育(地理)
林 日佳理	助教	英語教育



退職教員のご紹介

平成30年3月31日をもって、退職された教員は次の通りです。

谷 誉志雄	教授	美術教育
篠原 清昭	教授	教職実践開発専攻
久保 倫子	准教授	社会科教育(地理)
松村 聡子	准教授	英語教育
田村 知子	准教授	教職実践開発専攻
吉村 嘉文	准教授	教職実践開発専攻
栗田 京	特任教授	教職実践開発専攻
日比 暁	特任教授	教職実践開発専攻

各学科同窓

事務局より原稿依頼を行い、原稿

体育 (事務局 本巣市立真桑小学校 清水 康孝)

(1)平成29年度 優秀選手表彰

平成30年2月6日(金): 体育学科卒業論文発表会にて実施
本年度は13名の大学の現役選手の表彰を行いました。

(2)平成30年度 同窓会入会式

平成30年3月25日(日): 卒業式後に実施
本年度は20名の新会員の入会がありました。

(3)平成30年度 同窓会総会及び還暦お祝いの会・懇親会

平成30年6月9日(土)

会場: グランヴェール岐山

出席者: 84名

毎年、原則6月の第二土曜日に開催しています。総会とともに、還暦を迎えられた方のお祝いと懇親会を行い、親睦を深めています。



地学 (事務局 岐阜市教育委員会 武藤 正典)

◇同窓会・研究会活動

○「卒業論文・修士論文発表会」への参加

○「地学年末研修会」の開催

【期日】平成29年12月29日

【会場】石金

【内容】実践交流会, 研究会, 懇親会など



*毎年、12月29日に開催しています。参加していただける方は、事務局まで連絡をお願いします。

地理 (事務局 津市教育委員会 坂口 亨)

1. 第44回同窓会「濃飛の集い」

第50回生(代表 田中 奈美)が担当

【期日】平成30年8月26日(日) 午前9時半~正午

【会場】岐阜市 北部コミュニティセンター

(1)総会

- ・開会あいさつ
- ・実行委員あいさつ
- ・恩師の先生方のお話(野元先生・大関先生)
- ・参加者自己紹介
- ・諸連絡
- ・閉会あいさつ

(2)講演

演題「木曾川・長良川の明治以降の治水」

講師 後藤 征夫 氏

明治以降も、長良川上流域の岐阜市域とその周辺では破堤・出水が繰り返され、大きな被害を受けていました。しかし、オランダ人技師デ・レイケを始めとする多くの人々の努力により、木曾三川改修調査及び砂防工事等が繰り返され、現在の住みよい環境が整えられていきました。地図や年表を用いたお話は興味深く、昨今全国で多発する水害等と関連させて、大変考えさせられる内容でした。質疑応答においては活発に議論され、有意義な会となりました。



2. 次回活動予定 平成31年8月25日(日) 第51回生が担当

英語 (事務局 岐阜市立岐阜西中学校 水崎 綾香)

本年度、岐阜女子大学学長の松川禮子様をお迎えして、3年に一度の総会及び懇親会を実施いたします。ぜひ多くの同窓生の方々にご出席いただきたいと思っております。

平成31年2月3日(日), グランヴェール岐山において10時より『平成30年度 岐阜大学教育学部英語英文学科・英語教育学科同窓会総会』

【日程】

10:00~10:30 総会

10:30~11:30 講演会

講師: 岐阜女子大学学長 松川禮子様

11:45~14:00 懇親会

◇今後の活動について

会員の住所変更があった場合は、評議会でご評議員が書記に連絡していただきますようお願いいたします。

同窓会の活動

が届いた学科のみ掲載しています。

史学 (事務局 山県市立高富中学校 山元 祐介)

1 「史明会」総会の開催

【期 日】平成30年8月25日(土)

【会 場】ホテルグランヴェール岐阜

(1) 総会

およそ20名の同窓生が参加しました。新役員の紹介、事業報告、会計報告を行い、9名の新入会員があったことが報告されました。

(2) 講演会

岐阜県立加納高等学校から角田宜樹先生と地域研究部員の高校生12名(2年生:8名,1年生:4名)をお招きし、「加納高校地域研究部の活動について ~フィールドワークから見る地域の歴史~」について講演していただきました。

地域研究部の高校生が地域の寺社の石柱や灯籠に刻まれた文言や氏名を調べ、それらを基に徳川林政史研究所などの史料にあたりながら、江戸時代の名古屋商人と尾張徳川家の動向について探究した内容について発表しました。各地に足を運びながら研究に取り組む高校生の姿から大きな刺激を受けるとともに、史料を基に歴史を学び続けることの大切さを実感することができた講演会となりました。



(3) 懇親会

講演会終了後に懇親会を行いました。およそ10名の同窓生が参加し、大学時代の思い出や近況について語り合い、世代を超えて親睦を深めることができました。

※平成31年度の史明会総会及び講演会・懇親会は、8月24日(土)に開催します。多くの皆様方のご参加をお待ちしております。

国語 (事務局 恵那市立恵那東中学校 小島 光太郎)

学科として定期的な活動を行っておらず、関係の皆様にはご迷惑をおかけしております。

事務局として、同窓会名簿関係の業務を進めています。今後ともよろしくご協力をお願いします。

物理 (事務局 郡上市立大和北小学校 奥田 好紀)

学科として、定期的な活動は行っておりませんが、学年ごとに連携を深めております。

各学年の情報等、事務局までお知らせいただくとありがたいです。また、同窓名簿の修正や情報等につきましても、お知らせください。よろしくお願いいたします。

家政 (事務局 吉田 麻子)

1 2018年度の活動

(1) 会員の現況調査発送業務

各年次代表者の方宛に、年度毎同窓生現況リスト(平成30年7月抽出データ)を郵送し、現況調査依頼をしました。

7月に幹事4名で発送作業を行い、回収した現況調査結果は8月に幹事1名が集約し、岐阜大同窓会事務局宛に報告しました。

2 今後の活動

(1) 岐阜大学教育学部同窓会会員専用サイトの会員データの更新

現況調査の結果を岐阜大学同窓会事務局にお願いし、現況調査の結果を同窓会会員専用サイトに反映しています。

(2) 同窓会総会

次期総会・親睦会は2019年8月4日(日)にホテルグランヴェール岐阜で開催予定です。事前会合として2019年2月17日(日)に役員会、2019年4月21日(日)に年次代表者会議を開催予定です。詳細は別途ご案内します。

技術 (事務局 岐阜市立長良中学校 中西 健)

昨年10月7日に、3年に1度の総会及び懇親会を実施しました。今年度は、新役員体制で活動を始めました。次回の総会は2020年度に飛騨地区を会場として実施する予定です。

【研究会活動】

第55回 東海・北陸地区中学校技術・家庭科研究大会

第30回 岐阜県中学校技術・家庭科研究大会

1. 期日 平成30年10月18日(木)、19日(金)

2. 授業会場

<技術分野>

岐阜大学教育学部附属中学校 岐阜市立東長良中学校

岐阜市立長良中学校 岐阜市立陽南中学校

<家庭分野>

瑞穂市立穂積北中学校 岐阜大学教育学部附属中学校

岐阜市立長良中学校

3. 全体会場 じゅうろくプラザ

4. 研究主題 「未来を切り拓く確かな実践力の育成」

5. 内容

材料と加工に関する技術:「身の回りの製品に利用されている材料と加工の技術を探る」

エネルギー変換に関する技術:「生活や社会で利用されているエネルギー変換の技術を探る」

生物育成に関する技術:「作物の栽培を通して、目的に応じた生物育成の技術を探る」

情報に関する技術:「よりよい生活を築く『計測・制御』の技術を探る」

家族・家庭と子どもの成長:「地域の中で生きる私」

衣生活・住生活と自立:「創り出そう!安全・安心・快適生活空間」

身近な消費生活と環境:「めざせ!かしこい消費者」

ご不明な点などがありましたら、同窓会事務局までお問い合わせください。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

(1) 総会

隔年の開催となっており、本年度は開催なし。平成31年5月に開催を計画している。

(2) 夏季研究会

【開催日】平成30年8月11日(土)

【会場】郡上市文化センター

【研究会】発表者 関市立安桜小学校 田口 詠一 教諭
 瑞穂市立中小学校 原田 和樹 教諭
 関市立板取川中学校 川崎 哲郎 教諭
 岐阜市立東長良中学校 古橋 良一 教諭

当日は、岐阜大学の岩田恵司名誉教授、山田雅博教授にも参加していただくことができた。また、美濃地区の先生方にも多数参加いただき、約40名の会員の方と共に、充実した研究会を行った。



(3) 本年度の活動計画

○同窓会名簿「わしょう」について

本年度より、岐阜大学教育学部同窓会事務局の会員管理システムに移行しているが、年度代表者に連絡をとり、毎年の確認作業を行った。

○数学科卒業予定者に対する説明会

数学科卒業予定者に対して、数学科同窓会「わしょう会」の組織・規約等の説明会を行う。(平成31年1月予定)

○来年度以降の計画立案

運営委員会を行い、来年度以降の計画を立案する。(平成31年2月予定)

(4) その他

○岐阜大学教育学部同窓会事務局の会員管理システムについて
 住所や勤務先に変更がある場合は、岐阜大学教育学部同窓会ホームページから「会員専用サイト」にお入りいただき、各自で修正をお願いします。

○平成31年5月に31・32年度総会を予定しております。

ぜひ多くの会員様にご参会いただきますようお願いいたします。



● 編集後記 ●

11月初め、白川郷学園を訪問しました。この学校は岐阜県に2校ある義務教育学校の一つで教職大学院の学校経営実習でお邪魔しました。

かつて秘境の里と言われたイメージがありますが、現在この地で先進的な教育がなされています。学校とは何か、学校経営とは何かを根本からグランドデザインした教育活動が展開されています。

ふるさとの人材や資源を積極的に取り入れて、地域とコラボした学校づくりがなされ、白川村に誇りを持ち、世界へ発信できるグローバル人材を育成しようとしています。コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を備えて、村の伝統文化や環境、将来について自分自身の思いを表現できる9年間の英語教育、iPadを子ども一人に一台整備したICT教育など注目すべき学校経営に驚嘆しました。

昼食に道の駅で販売されている「いなり寿司」を食べましたが、この寿司も子ども達が関係していました。ふるさと学習で地域の食材や調理方法を学び、社会科や家庭科などの教科と関わらせて寿司を開発、提案して市販が実現したそうです。店頭での販売体験も行っているとのことでした。実際に取り組んだ体験を最上級生(9年生)が見事にプレゼンテーションしてくれました。

教育長や学校管理職の方々の説明から、充実した教育活動が行われる背景には、村全体で育てるという教育行政の支援や、ふるさと学習や行事、地域連携を目的でなく、手段として子どもの成長に繋げていく学校経営の発想やコンセプトがあることを実感しました。

各地で卒業生が素晴らしい実績を上げています。会報を通して少しでも紹介し学び合えたらと考えています。

(広報部会 竹市安彦)

平成30年度
各学科同窓会事務局連絡先

学科	担当者		電話
国語	小島光太郎	恵那市立恵那東中学校	0573-25-5261
史学	山元 祐介	山県市立高富中学校	0581-22-1063
地理	坂口 亨	海津市教育委員会 学校教育課	0584-53-1499
法経	丸山 靖生	健康福祉部 わかあゆ園	0585-32-2240
哲学	田中 明	岐阜市立長森北小学校	058-245-5249
数学	西尾 鹿正	関市立旭ヶ丘中学校	0575-22-5351
物理	奥田 好紀	郡上市立大中小学校	0575-88-2007
化学	野田 国宏	羽島市立竹鼻小学校	058-392-3000
生物	山村 雄太	岐阜大学教育学部附属中学校	058-271-0320
地学	武藤 正典	岐阜市教育委員会 学校指導課	058-241-2114
音楽	羽土 聡	郡上市立白鳥小学校	0575-82-3144
美術	小野由加里	岐阜市立青山中学校	058-294-1555
体育	清水 康孝	本巣市立真桑小学校	058-323-1590
技職	中西 健	岐阜市立長良中学校	058-231-7207
家政	吉田 麻子		052-778-8122
英語	水崎 綾香	岐阜市立岐阜西中学校	058-239-1444
教育	安田 和夫		0584-78-1883

同窓会報第24号の表紙

《サンドイッチ伯爵》

榎 萌乃 (美術教育講座4年)

額の外側にレタスとマヨネーズが飛び出している騙し絵を描きました。一般的な食べ物であるサンドイッチをいかに豪華に見せるかと、四角と丸の繰り返しでリズムカルな構図を意識しました。



岐阜大学同窓会報第24号

発行日 / 平成30年12月発行

発行者 / 吉田 政直

発行所 / 岐阜大学教育学部同窓会

〒501-1193 岐阜市柳戸1番1

TEL. 058-293-2344 (平日10時~15時)

FAX. 058-293-2343 (24時間)